

平成24年7月13日
電気事業連合会

電力システム改革における論点に関する考え方および取り組み

本委員会で議論されている様々な施策を具体化し、実現させるため、今後、詳細検討が進められるものと認識しています。電力会社は、これまでのノウハウ、知見を活かし、真に国民の利益となる電力システムの選択判断に資するべく、最大限協力してまいります。

詳細検討に進むにあたり、本委員会での電力システム改革に係る主な論点について、下記のとおり意見を申し述べます。

1. 競争活性化策について

○小売分野における全面自由化の導入について、事業者選択肢の拡大や料金メニューの多様化を通じ、お客さまの選択肢拡大に資する等、真に国民の利益につながるよう、我々電力会社としても、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

○部分供給や常時バックアップを含む卸電力市場の活性化については、直ちに出来ること、需給ひっ迫が解消されればより積極的に出来ることそれぞれをできる限り前向きに対応してまいりたいと考えております。

原子力の再稼働の状況や予備力の確保状況、あるいは卸事業者を含む各電源の需給運用上の役割等、各社それぞれの実情を踏まえながら、お客さまや新電力からの申し出に真摯に対応するとともに、取引所における売買が更に活性化され、最終的にはお客さまの利益として還元されるよう、各社とも当面できることから早期に実施してまいりたいと考えております。

(取組み例)

- ・部分供給のガイドライン化への対応
 - ・常時バックアップの料金見直し等への対応
 - ・予備力を確保した上で余剰電力を限界費用ベースの価格で市場投入
 - ・需給運用に支障ない範囲での卸電気事業者の電源供出に向けた検討
- ※どのような取組みを実施するかは、各社判断

○また、我々から提案しました需給直前市場が設置されれば、新電力の需要に応じた供給力の調整を容易化するだけでなく、取引所取引を通じた電源の経済的な活用を積極的に行うことにより、取引量の増大に貢献できるものと認識しています。

○卸電力取引は、市場原理に基づき各社の戦略の中で実施されることが原則であり、先ずは上記のような取り組みを各事業者が自主的に進めてまいります。なお、自主的取り組みの確認のため、取引所への入札状況等について、中立的な独立組織等が入札状況をチェックすることも有効ではないかと考えます。

2. ネットワークの中立化・広域化について

○競争促進を図る観点からは、公正で透明な競争環境を整備する必要があり、そのために、電力の送配電部門の広域化・中立性確保を進めていくことが重要であると考えております。

○まず、震災以降の公益的課題である大規模需給逼迫時の広域需給調整や再生可能エネルギーの導入拡大等に対応するため、中立的な独立組織を設置し、当該組織が各地域における中立性確保や競争環境の整備、広域的運用の核として、早期に機能させることが極めて重要であり、詳細検討の中で中立的な独立組織の早期の具体化に向けて検討に協力してまいります。

○また、新電力のシェアやエリア外からの供給が大幅に増加すれば、各エリア内の需給調整や周波数調整を行う電源が不足するなど、現行の体制のままでは電力供給の安定性や品質の維持が困難になるおそれがあります。

エリアの電力以外にも応分の周波数調整の役割を担ってもらうためには、周波数調整などの中立化の観点からも、組織形態の見直しが求められます。機能分離型または法的分離型についても、広域化とあわせて詳細検討してまいります。

○組織形態の選択に向けた今後の詳細検討において、課題の洗い出し・解決策の検討に際し、電力会社も最大限に協力してまいります。今後、特に検討を深めるべき論点について以下に申し述べます。

- ・まず、安定供給を支える役割分担や責任のあり方等の明確化が必要です。現在は、長期から短期まで適正な予備力を確保するという供給力確保等の役割や実需給断面での最終調整の役割を電力会社が担っていますが、これを、新電力を含め誰が担うようにするかについて、システム設計の前提として明確にしておく必要があります。

- ・次に、将来の競争の進展状況や再生可能エネルギーの導入拡大等を想定して、新たな仕組みを考える上での信頼度基準（安定供給を保つための予備力の持ち方や系統計画に関する基準）をどう設定するか、（需要抑制を加味した）予備力・周波数調整力等の需給調整の仕組みをどう見直すか、さらには連系線増強が必要となる場合の系統構成のあり方（串型、メッシュ系統）をどう考えるか等、将来の可能性をできるだけ取り込んだ上で、需給や系統・制御システムの設計をすることが、安定供給の維持の観点から重要と考えます。

以上のとおり、組織形態の選択にあたっては、電力供給の安定性や品質維持のため、上記に示した系統構成や連系線のあり方、競争の進展状況など、需給や系統・制御システムの設計の前提となる状況や条件を見極めながら、費用や移行期間を比較・評価していくことが重要と考えます。

- 現行の体制から移行することは、私どもにとっても経験のない世界であり、上記に示したように、検討すべき論点も多岐に渡ると思われますが、詳細検討に精力的に取り組み、1つ1つ解決策を見いだすことで、中立性が確保された競争環境と安定供給が両立するシステムの構築に向け、私どもも真摯に取り組んでまいります。

以上